



中海・宍道湖
・大山圏域

市長会 通信②⑤

■ 伯備新幹線の早期実現に向けて

6月7日(水)、圏域市長会の4市長は、国土交通省鉄道局の上原局長と面会し、山陰新幹線及び伯備新幹線に関する要望を行いました。今後も、山陽と圏域を結ぶ伯備新幹線の早期実現に向け、官民が一丸となって取り組みます。



▲右から田中市長(安来市)、上定市長(松江市)、上原鉄道局長、伊木市長(米子市)、飯塚市長(出雲市)。

■ 島根大学学生とフィールドワークを実施

圏域市長会では、島根大学との包括連携協定に基づき、将来的に



◀▲安来市では、天野紺屋(左)、足立美術館(上)、道の駅あらエッサでフィールドワークを行いました。



圏域で活躍する人材の育成や地域定着を目的とした「若者を共に育てるプロジェクト」事業を実施しています。

6月24日(土)に「地域人材育成コース」の75人が圏域5市に分かれ、各市の職員とともにフィールドワークを行いました。「地域人材育成コース」の入学パンフレットに掲載する圏域の魅力発信の記事を学生が作成します。

問い合わせ

中海・宍道湖・大山圏域市長会事務局

☎0852-55-5056

歴史資料館資料 連載⑥知っておきたい 安来市の歴史

安来市立歴史資料館の展示品を通して安来市の歴史を紹介する、このシリーズ。第6回は中世の安来を紹介します。

一般的に日本の中世は、平安時代後期(12世紀)～室町時代後期(15世紀)までとされます。武士が台頭してくる時代背景の中、後鳥羽上皇、後醍醐天皇が隠岐に流罪となりました。特に、後醍醐天皇の足跡は市内にもいくつか残っています。

雲樹寺は後醍醐天皇より下賜された「天長雲樹興聖禅寺」が名前の由来とされ、山門の正面上に直筆と伝わる額があります。また、「大門」と呼ばれる四脚門は重要文化財に指定されています。



▶現在の雲樹寺四脚門(上)と、歴史資料館で展示している創建当時(室町時代)の1/2復元模型(下)。



▲出土した宝篋印塔。

雲樹寺と同様に歴史のある清水寺についても、本堂は室町時代の建築で重要文化財に指定されています。

安来市の重要文化財建造物は、この2件だけです。

市内の数少ない中世の発掘調査成果として、油坪3号墳(黒井田町)から出土した陶製の宝篋印塔があります。宝篋印塔とは、墓塔・供養塔に用いられる仏塔の一種で、石製が一般的ですが、陶製のものは全国的にみても珍しいものです。

この宝篋印塔は、石製基壇(建造物を立てるための土台として石を積んだもの)の上から出土しており、基壇の下には火葬骨が埋葬されていました。骨は南北朝時代(14世紀中頃～末)のものと考えられ、この頃、十神山城を拠点にこの地域を支配下に置いていた松田氏に関係のある人物の墓であることが推測されます。

問い合わせ

歴史資料館 ☎32-2767